

かわすみ家



大幣（おいため）に込めた祈りは今もなお

古き杉戸の前に鎮座する布団太鼓模型

特集 / 企画展示 祭礼展

pick up!

竹細工芸展

やさしい暮らし 昔にならう

ー四海波花籠と、季節の花のしつらいー

歴史コラム

日下の嘶「千手寺（せんじゅうじ）」

河澄家の自然 北庭に実る橙



展示・イベントのご案内



2025 年 12 月 12 日 (金) ~ 2026 年 1 月 12 日 (祝)

2025 年 12 月 21 日 (日)

2026年1月11日(日)

每月第2・第4土曜日





かわすみ家

2025
Dec.
vol.

33

東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニュースレター

目次

04 特集 祭礼展

氏子地区の布団太鼓と、だんじりの模型

06 日下の嚙 千手寺 せんじゅうじ

白鳳時代に役行者（えんのぎょうじゃ）によって開創されたと伝わる真言宗の寺院

08 イベントレポート

原始ハス&古民家見学会

理科モノづくり教室

文学講座 上田秋成と頼山陽

歴史講座 丸山古墳

古代体験会 はにわを作ろう

近畿大学峰滝ゼミ REPORT 流しそうめんと夏の工作

10 Pick Up

竹細工工芸展

やさしい暮らし 昔にならう 一四海波花籠と、季節の花のしつらいー

12 イベントカレンダー



旧河澄家の自然

冬陽を受けて色づく橙

橙（ダイダイ）学名: Citrus aurantium



柑橘の葉の付け根「翼葉（よくよう）」

ミカン科ミカン属 常緑樹

ー古き庭に息づく繁栄の象徴

橙は、実が落ちずに翌年も枝に残り続けるという珍しい性質を持ちます。このことから「代々（だいだい）続く」に通じ、家の繁栄や家系の継続を象徴する木として、古来より日本家屋の庭に大切に植えられてきました。

落ちずに実を保つ姿は、旧家にとって“家が絶えない”という吉兆とされ、古民家の北庭に橙が植えられているのは、とても縁起のよい配置なのです。

祭礼展

氏子地区の布団太鼓と、だんじりの模型



職人に依頼して忠実に再現した昼提灯



展示風景 ヒロシキにて

祭礼展

令和七年十月一日から十一月三日までの期間、恒例の「祭礼展」を開催しました。会場では大宮顕秀氏の協力により、氏子地区の布団太鼓と、だんじりのミニチュア十五台を含め土呂幕の彫刻や布団締め刺繍柄を忠実に再現したレーザー彫刻、装飾具など計七十二点と、併せて地区ごとの写真パネルを展示、会場内にはモニターを設置して、本年八月四日に斉行した石切劔箭神社夏季大祭を収録したDVDを放映致しました。

祭礼展は平成二十七（二〇一五）年に始まり今年で十一回目を迎えました。記録によると、石切劔箭神社の祭礼を紹介しながら、地域の文化や歴史という客観的な視点に立ち、自らの地域について考える一助となることを目的として始められ、二回目からは、地車・布団太鼓模型コレクターである大宮顕秀氏にご協力いただき、枚岡神社の布団太鼓も加わりました。ご来館の皆様方には、様々な彫刻や刺繍の細かい部分を間近に観る事ができる、展示ならではの醍醐味をお楽しみ戴けたのではないのでしょうか。

大幣について地域の伝承

旧河澄家のある目下の氏神は石切劔箭神社の夏季大祭では神輿と共に三体の大幣が昇番の氏子地区内を練り歩きます。（昇番。大幣については『ニューズレター Vol.32 p.11（やや）い暮らしにならう』参照）

大幣よばれる三面の扇を括りつけた7mの御幣（ごへい）を勢いよく撓らせる大幣神事について、地域の古老によれば雨乞いの意味があると云います。同様の伝承が奈良県天理市に鎮座の石上神宮にもあります。石上神宮は、石切劔箭神社と同様に物部氏に縁の深い神社です。【武門の棟梁たる物部氏の総氏神として信仰され（中略）第一〇代崇神天皇7年に現地、石上布留（ふる）の高庭（たかにわ）に祀られました。古典には「石上神宮」「石上振神宮（いそのかみふるじんぐう）」



大宮顕秀氏のコレクションより

大幣模型と日下布留太鼓模型

「石上坐布都御魂神社（いそのかみにますふつのみたまじんじゃ）」等と記され、この他「石上社」「布留社」とも呼ばれていました。」（※石上神宮 ホームページより）同神宮も石切劔箭神社と同様に物部氏と縁のある、「布留」を伝える神社と解ります。現在も同神宮の鎮座地は奈良県天理市布留町、他に布留川・布留山という地名が残ります。この事により、いそのかみは「布留」に掛かる枕詞となります。

万葉集巻3 0422 石上布留の山なる杉群の思ひ過ぐべき君にあらなくに

布留から「古（ふる）い」「降る」

やがて時代と共に「ふる」は地名から、雨が「降る」、「古（ふる）い」という意味も持つようになくなります。

万葉集 巻4 664 大伴像見 **いそのかみ**降るとも雨につつまめや妹に逢は

むと言ひてしものを

古今和歌集 巻3夏歌 144 素性法師 **いそのかみ**古き都の郭公 声ばかり

こそ昔なりけれ

枕詞「いそのかみ」を中心にして「ふる」の意味が「振る」から「古（ふる）い」「雨が降る」という意味を持つようになります。先に紹介の石上神宮も「江戸時代になりますと農業神へと変化したしました。雨が降ると、布留というのをかけて、雨乞いの神様として信仰されました」（神社本庁研修ブックレット7『鎮魂行法の心』 石上神宮 前宮司 森武雄）

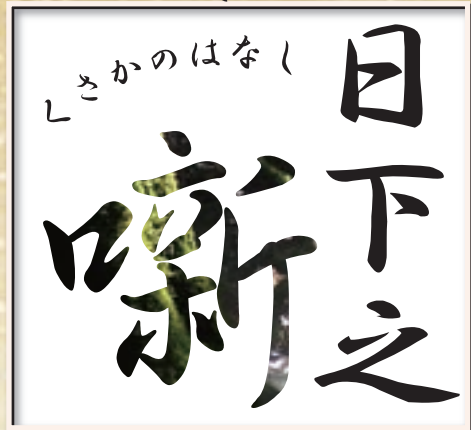
正に前述の氏子地域内に伝わる雨乞いの話も、「布留」の伝承が神代の時代では「ゆらゆらと振る」という意味が、やがて「古い」「雨が降る」と変わりつつ現代にまで伝えられて来たことを表します。

稽古照今（古きを稽（かんがみ）て今を照らす）は古事記序文の言葉です。歴史を深く学んで今を照らす事により、それは未来への道筋を明らかに致します。

布留部、由良由良止 布留部（ふるべ ゆらゆらとふるべ）

昇番の本年だからこそ、わが街のご祭神「饒速日尊」が祈りを籠めた神代のむかしに思いを馳せて、新しい年を清々しく迎えませんか。

—歴史コラム—



豊かな自然と文化の街、日下

生駒山麓～日下地域、河澄家の
過去から現在に至るまでのおはなし

千手寺（せんじゅうじ）

近鉄石切駅を南側に出て石切参道を一〇〇メートルほど下ったところを南に入るとまもなく恵日山千手寺（えにちざんせんじゅうじ）が見えてきます。千手寺は白鳳時代に役行者（えんのぎょうじや）によって開創されたと伝わる真言宗の寺院です。役行者が笠置山で修行中、不思議な光が現れ、それに導かれるようにして生駒山の麓のこの地に到ると神々を従えた千手観音が現れ、役行者はその姿を刻んで小堂を建て、そこに千手観音を祀ったとされています。この由緒からその堂を「光堂（ひかりどう）」と称し、その里の名前を「神並村（こうなみむら）」と称したとも伝えられています。また当寺に伝わる『河州神並村恵日山千手寺光堂略縁起』によると、平安時代初期に弘法大師空海がこの寺に泊まった際、善女竜王が夢に現れ、普陀山の香木を与えたといっています。空海は

この木で千手観音像を刻し本尊としたとされています。その後、光堂は惟喬（これたか）親王の乱で焼失し、本尊の千手観音は深野池（ふこうのいけ）に飛び入り、難を逃れます。その夜近辺に來訪していた在原業平（ありわらのなりひら）が、池が光り輝くのを見て池に沈んでいた千手観音を発見し、五つの坊舎を建立して寺を中興したといっています。境内には業平の供養塔と伝わる南北朝時代の高さ一・三二メートルの五輪塔が建ち、山門前には在原業平腰掛石と伝わる石が残されています。

この寺の本尊千手観音立像は高さ一・九メートルの櫃（かや）材寄木造で平正十二年（一三五七年）南都大仏氏康成らによって造立されたとの墨書が残る府指定文化財です。他にも千光寺所蔵の生駒山宝山寺を開いた湛海作木造不動明王立像（厨子入）や、湛海作の木造不動明王像（共に府指定文化財）、更に江戸時代作の絹本着色不動明王画像や、鎌倉時代から室町時代の密教法具（金銅五鈷杵（こんどうごこしろう）、五鈷鈴（ごこれい）、片珠金鐺（へんじゅこんぺい））などは市指定文化財に指定されています。

境内本堂裏手には弁天塚古墳（べんてんづかこふん）と呼ばれる六世紀後葉に築かれたと推定される神並六号墳があります。この古墳は横穴式石室を持つ円墳だったと推定されますが墳丘は削られていて規模は不明で、羨道（えんどう、せんどう）は失われていて奥行四・八メートル程の玄室だけが残り、須恵器、土師器、耳環などが出土しています。

この近鉄奈良線石切駅周辺は、むかし千手寺山とよばれ、この一帯は大阪層群とよばれる赤土が露出している地域でもあり、この赤土からは昭和三十七年に旧石器時代のナイフ形石器が採集され、縄文時代に先行する旧石器時代の千手寺遺跡（せんじゅうじやまいせき）が確認されました。この遺跡は千手寺周辺まで広がると考えられ、弁天塚古墳（神並六号墳）が千手寺境内に遺されており、昭和五十七年に発掘調査が実施されています。また昭和五十三年には千手寺山遺跡の斜面で火葬墓が発



千手寺山門



千手寺本堂



五輪塔



在原業平腰掛石



弁天塚古墳



弁天塚古墳への入口

見され、更に昭和六十三年に共同住宅建設工事に伴う発掘調査が東石切町三丁目で行われ、古墳時代・奈良時代の遺構・遺物が検出されました。その古墳時代の遺物からは土器などに混じって直径四・五センチ・厚さ二・〇センチ、重さ一四・七グラムの古墳時代の珠文鏡（しゅもんきょう）が二面出土しています。この鏡の縁は平縁で、文様はなく、圏線を一带巡らした内区には九個の珠文（しゅもん）を六ミリメートル間隔で配し、中央に径六ミリメートルの紐（ちゅう）と呼ばれる紐（ひも）を通す穴が開いた突起がついています。

これらの調査結果からこの千手寺山遺跡は旧石器時代から古墳時代・奈良時代まで続く遺跡であると考えられ、このような鏡が出土した生駒西麓斜面に位置するこの地は、時代を通じて何か特殊な場所であったのかもしれません。

旧河澄家にて開催しましたイベント&展示のご報告。
地域の方々と触れ合いながら様々な催しを致しました。
詳しいイベント情報はホームページにも掲載中です。

Kawazumi Report

原始ハス&古民家見学会

一〇二五年七月六日(日)開催

毎年七月初旬のこの時期になると旧河澄家隣にある井上家の二つの蓮池には原始ハスが満開となり、近隣からの多くの見物客で賑わいます。この日は午前と午後に分けてその原始ハスと旧河澄家及び井上家の二軒の古民家建物をガイド付きで見学するイベントを開催しました。まずは集合場所である旧河澄家の主屋と庭を見学した後、江戸時代初期に建てられ大和棟(やまとむね)の屋根が美しい井上家を訪問して当主の井上家昌氏から建物の構造や、古くから使われているカマド、井戸の使い方の解説に加え、納屋に保管された人が乗る籠(かご)などの古い道具を見せていただきました。参加者は、「天候にも恵まれ、綺麗な原始ハスを見ることができ、また井上様からは昔の暮らしに関する色々な話が聴けてとても貴重な時間だった」との好評をいただき、思い出に残る初夏の一日となりました。



満開の原始ハスと井上家土塀



旧井上家住宅長屋門にて

理科モノづくり教室 空気之力

二〇二五年八月二十四日(日)開催

近畿大学名誉教授木村隆良氏を講師にお招きし、身近な材料を用いて実験道具を作り、それらの道具を使って家族で理科の実験を楽しむイベントが旧河澄家で行われました。毎年夏休みのこの時期に様々なテーマで行われている本イベントの今回のテーマは「空気之力」ということで、真空ビンの中に水風船やメレンゲなどいろいろな物を入れて減圧し入れたものがどのように変わるかを観察する実験や、頑丈な金属製の一斗缶を空気の力でつぶしたりする体験実験を六種類行った後、プロワで六個のボールを宙に浮かせたりする演示実験二種類を観察しました。参加者からは「盛りだくさんの実験を楽しく学べました。」「空気について勉強が出来たので、学校でみんなに教えてあげたいです。」などという感想をいただき、家族みんなで実験を楽しむ真夏の一日となりました。



実験を行う講師 木村隆良氏



真剣に大気圧を学ぶ参加者

文学講座

上田秋成と頼山陽

二〇二五年九月七日(水)開催

毎年当館で講師をしていただいている元大手前大学助教授藤井千年(ふじいちとし)氏をお招きして今年も文学講座「上田秋成と頼山陽」を開催しました。江戸時代後期の国学者で『雨月物語』などの読本作家として知られる上田秋成と、同じく江戸後期の儒学者で『日本外史』の著者として有名な頼山陽の、共に好んだ煎茶道(せんちゃどう)に関する考え方等を中心にご講演いただきました。両者共に権力者の手によって汚された茶の湯を批判し、一方で煎茶は清(せい)を究(き)め、とられない自由な心や芸術作品を生み出す境地を養うものとして深く傾注しました。また講演の中で藤井千年氏は頼山陽作による漢詩の吟詠を演じていただくとともに、お茶に関連して古典落語「はてなの茶碗」の落語公演も披露頂きました。参加者からは「藤井先生のお話に加えて詩吟や落語も拝聴出来て感激しました。」との好評をいただき、煎茶と文人達の知識に触れる充実した時間となりました。



文学講座 講師 藤井千年氏



旧河澄家HP
イベント情報

旧河澄家HPイベント情報ページ→ <http://www.kyu-kawazumike.jp/eventinfo/>
Facebook情報ページ→ <https://www.facebook.com/kyukawazumike>
Twitter情報ページ→ https://twitter.com/kyu_kawazumike
Instagram情報ページ→ https://www.instagram.com/kyu_kawazumike/

歴史講座

石切劔箭神社祭神と 富雄丸山古墳

二〇二五年九月二十一日（日）開催

東大阪文化財を学ぶ会会長南光弘氏による歴史講座を開催しました。南光弘氏には毎年当館で地元東大阪の歴史に関連するテーマでご講演いただいています。今回は今話題の長大な蛇行劔（だこうけん）が出土した富雄丸山古墳（とみおまるやまこふん）に関するテーマとあって、多くの参加者が集まりました。東大阪市にある石切劔箭神社（いしきりつるぎやじんじや）祭神である饒速日命（にぎはやひのみこと）は古代この地域の有力氏族で物部氏（もののべし）の創始者と伝わり、同じく物部氏に関連する神社の中には劔（つるぎ）がご神体である神社もあり、富雄丸山古墳の被葬者は饒速日命の子孫である物部氏の当時の有力者の誰かではないかという説を解説いただきました。参加者からは「富雄丸山古墳の被葬者のお話とても面白かったです。」などという好評をいただき、地域の歴史に触れる貴重な時間となりました。



歴史講座 講師 南光弘氏

古代体験会

はにわを作ろう

二〇二五年九月二十三日（祝）開催

近つ飛鳥博物館の指導により毎年好評の企画イベント「古代体験会はにわを作ろう」を行いました。まずは学芸員から古墳時代とハニワについて解説を受けた後、粘土を丸めて中をくり抜き、目、鼻、口の顔を設定して手を付けて行きます。来年の干支でもある馬の形をしたハニワの作り方の解説も行われ、馬のハニワづくりを楽しんだ参加者もいました。親子で参加された方からは「とても楽しかったです。娘が遊んだゲームにハニワが登場して娘が興味を持っていたので、古墳の説明などを聞いてハニワに親しめてよかったです。」と喜んでいただきました。またこれまでも参加されたリピーターの方もおられ「何度か参加させていただいておりますが、毎回とても満足させていただいております。また作りに来たいです。」と次への期待もふくらむ楽しいイベントとなりました。



はにわ作りを楽しむ



はにわ作りの説明をする
近つ飛鳥博物館 樋口 嘉和氏

峰滝ゼミ

近大 畿学
KINDAI UNIVERSITY

流しそうめんは夏の工作

二〇二五年八月三十日の旧河澄家では、「流しそうめん」と夏の工作「ストローで輪ゴム鉄砲づくり」のイベントを開催しました。流しそうめんでは、突入下の中にも関わらず、お手伝いから年配の方まで幅広い年代の方々にとても楽しんでいただき、笑顔あふれる素敵な時間となりました。実食タイムでは、おかわりをする方が続出し、多めに用意していたそうめんが全てなくなった瞬間、開催できて本当によかったと感じました。輪ゴム鉄砲づくりでは、完成した輪ゴム鉄砲を使った的当てゲームや、その的を代用した輪投げゲームも行いました。お子さんから「楽しい！」「もっとやりたい！」という声があがりました。自分たちで考案した工作で楽しんでくれたことは、ゼミ生にとって大きな達成感に繋がりました。デジタルが当たり前の時代だからこそ、アナログな体験に触れられる今回の企画は、地域の方々と直接交流しながら企画を形にできる貴重な機会となりました。



完成した輪ゴム鉄砲で楽しむ子どもたち



夏の陽ざしに照りつける中
竹を流れるそうめんに
笑顔あふれました



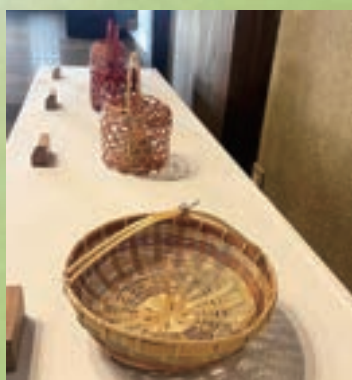
竹細工芸展

暮らしをつなぐ、竹の手仕事

二〇二五年七月十八日(金)

八月十七日(日)

旧河澄家主屋では、「夢の森づくり隊・竹かご教室」の方々による作品三十九点を展示、併せて壁面には「輪弧(りんこ)編み」「四ツ目編み」「六ツ目編み」「ゴザ目編み」「網代編み」など、竹細工の文様を紹介しました。「夢の森づくり隊」は、「大阪府 蜻蛉池公園のふれあいの森」(大阪府岸和田市)で豊かな森づくりを目指して活動をしている団体で、大阪府が府民協働の森づくりを目指して募集したボランティア人材で構成されています。主に、竹の伐採と竹材の利用、樹木や生物の調査、植樹、食育活動、森の清掃、イベント開催などの活動をされています。ボランティアに参加する濱名信男さんは「プラスチック削減などにより竹製品が見直されている。作品を鑑賞するだけでなく、日常生活でも使ってもらいたい」と話します。竹取物語は竹から命が生まれました。竹細工として吹き込まれた新たな命は、やがて魅力となり遍く広がる事を願って止みません。



手しごとのぬくもりが感じられる竹籠や小物入れ

存在感のある大作も展示

編みの技を感じる竹細工

竹細エワークシヨップ

竹細工芸展に合わせて、二〇二五年七月三〇日（日）には竹細エワークシヨップを開催し、四海波花籠を作りしました。展示戴いた「夢の森つくり隊・竹かご教室」の方々による熱心な指導により、ご参加の皆さんは慣れない手つきで苦心しながらも、夫々に満足のいく作品が出来上がったようです。

アンケートでは「結構難しかったです。無地完成して良かった」「何故か長さが足りなくて自分で完成させることが出来なかったのが残念です。でも先生が作られたかごをいただけて良かったです。」また、「竹細工の美しさを知った。材料も準備が大変だったでしょうね。ありがとうございました。」と、お手伝い戴いたスタッフの皆さんを気遣う感想もいただき、明日への繋がりを予感させる心むイベントとなりました。



四海波花籠
四海波文様をあしらった竹の花籠



講師による編み方指導



初めて竹細工に挑戦中



編み方を学ぶ様子

やさしい暮らし

昔にならう

四海波花籠と、

季節の花のしつらい

小暑の頃、会場となった主屋は竹のもつ静かな存在感と、夏らしい清々しさに包まれました。

竹細工作品に、水引草や藪茗荷がそつと添えられた展示には、野の花をしつらえる趣とともに、手しごとを通して竹林を守る姿勢―持続可能な暮らしの知恵も感じられました。

四海波文様は『天下泰平・穏やかな暮らし』を祈る吉祥文様です。

波が四方に広がることから「世の中が穏やかにおさまりますように」という願いが込められています。日々の道具である花籠に、ただ便利だけでなく、心の豊かさを暮らしに重ねていた昔の価値観が息づいています。

季節の草花と自然に寄り添うその佇まいには、昔の人が大切にしてきたやさしさと美意識が、静かに息づいていました。



藪茗荷
夏をしつらえる



そつと添えた水引草



河澄家に残る花籠を手本に制作された作品
右：竹細工作品 左：河澄家に伝わる花籠（民具）



2025年12月～ 旧河澄家 イベントカレンダー

沢渡は、池や田に自生する水草で、古くは貴族の車や武具の文様として用いられました。葉の形が矢に似てるところから、別名「勝ち草」とも呼ばれ、武家の家紋として人気がありました。

※イベント日程は本誌発行時の予定ですので、都合により多少前後する可能性があります。詳しくはお問合せください。

秀鳳書の教室 書道展

地域で活動されている書家・深川秀鳳さんと、書道教室の生徒さんの作品を展示します。本展は、今回で5回めの開催を迎えました。今年も一人ひとりが選んだ言葉・大切にしている想いが書のかたちとして表現されています。作品の前に立ち、言葉の響き・余白の静けさを感じていただけたら幸いです。



昨年の展示風景

見学無料

孔舎衛校区福祉委員会主催 新春大道芸公演と昔遊び お餅のお土産付き

河内小梅一座による南京玉すだれや傘まわしなどの大道芸をお楽しみいただけます。南京玉すだれや皿回しを実際に手に取り、楽しむことができます。奥座敷ではお手玉や昔遊びを、庭ではコマ回しや羽子板で遊ぶこともできます。お正月の古民家で、懐かしい遊びと笑顔あふれるひとときをお過ごしください。



昨年 皿回し体験風景

参加無料

近畿大学峰滝ゼミ共催イベント 古民家でもちつきとクリスマス飾り作り

冬の恒例行事、餅つきを開催します。

12/21 (日)

「よいしょ！」の掛け声とともに、古民家の土間に響く杵の音。つきたてのお餅の香りに包まれながら、力をあわせて餅をつく、冬の楽しいひとときです。餅つきの後は、近畿大学峰滝ゼミの学生たちと一緒に、クリスマス飾り作りを楽しみます。古民家でほっこりとしたひとときをお過ごしください。



参加費 200 円

論語の素読会

毎月
第2・第4
土曜日

声に出して文字を読む「素読」。素読は、江戸時代の寺子屋で活用されていた学習方法でした。素読で読む文書として中国の古典「四書」がよく使われています。その中のひとつに「論語」があります。「論語」は、孔子とその弟子の中でも優れた人物たちの言葉をまとめた書物で、心を打つ章句が詰まっています。古来から大切にされてきた生き方や考え方を学びませんか。



参加無料

きゅうかわずみけ

東大阪市指定文化財 旧河澄家

見学無料

所在地 〒579-8003 大阪府東大阪市日下町7丁目6-39
電話番号 TEL/FAX 072-984-1640
ホームページ <http://www.kyu-kawazumike.jp>
開館時間 午前9時30分～午後4時30分
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)
入館料 無料
駐車場 5台(無料)
満車の場合は、近鉄けいはんな線「新石切駅」周辺の有料駐車場をご利用ください。

◆アクセス方法

公共交通機関をご利用の場合

- ・近鉄奈良線「石切駅」より北西へ1.2km
- ・近鉄けいはんな線「新石切駅」より北東へ2km
- ・近鉄奈良線「東花園駅」または近鉄けいはんな線「新石切駅」より、近鉄バス「四條畷行き」または「住道行き」に乗り「南日下」バス停より東へ800m
- ・JR学研都市線「住道駅」または「四條畷駅」より、近鉄バス「東花園駅前行き」に乗り「南日下」バス停より徒歩東へ800m

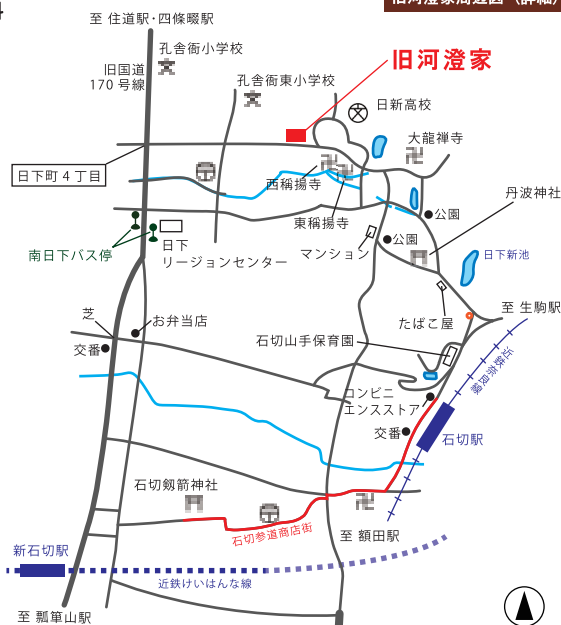
マイカーをご利用の場合

- ・旧国道170号線「日下4丁目」交差点を東へ、約600m直進

◆指定管理者 株式会社アスウェル TEL: 072-939-7861
FAX: 072-952-4340

URL <http://www.asuwell.co.jp>
E-mail mail@asuwell.co.jp

旧河澄家周辺図 (詳細)



株式会社アスウェルは、総合ビルメンテナンス会社として、次の認証を取得しています。

